

研究成果情報

平成 26 年度

人工受粉が不要で“おいしい”日本なし新品種「新美月」と「新王」 <small>しんみづき しんおう</small>		
〔要約〕日本なし新品種「新美月」と「新王」を育成した。2品種とも赤なしであり「新美月」は酸味を伴う甘さ、「新王」は甘味の強さが特徴的で消費者の食味評価が高い。栽培面では、自家受粉で着果する特性を持っているため、開花期の天候不良の影響を受けにくく、春作業の大幅省力化も可能となる。品質と栽培の両面において新潟県に適した品種である。		
新潟県農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

〔背景・ねらい〕

新潟県は古くからの日本なし産地であり、全国有数の消費地でもある。新潟県民の嗜好性が高い良食味品種の生産拡大により県産果実の消費拡大を図るとともに、全国にアピールできる新たなブランド作りを目指す。

〔内容〕

1 育成経過

平成9年に「おさ二十世紀」と「豊水」を交雑し、黒斑病抵抗性と自家和合性を有する個体を選抜した。平成21年に生産者、関係機関、消費者の評価により2系統を有望と判定した。平成23年に「新美月」、「新王」として品種登録出願し、平成25年3月に品種登録となった。

2 果実の特徴

- (1) 収穫時期は「新美月」が9月中旬から下旬、「新王」が9月下旬から10月上旬で、それぞれ「豊水」、「あきづき」と同時期である（表1）。
- (2) 2品種とも果実の表面が茶色でザラザラした赤なしである（写真）。「新美月」は酸味を伴う濃厚な食味、「新王」は強い甘味に特徴があり、消費者の食味評価が高い（表1、図1）。
- (3) 2品種とも「豊水」並みに果形がやや不揃いで、「新美月」は果梗が太いという特徴がある。

3 栽培上の特徴

- (1) 花芽の着生が多く豊産性で、黒斑病抵抗性であるため無袋栽培も可能である。そのため、既存の赤なし品種と同様に栽培しやすい。
- (2) 自家和合性であるため人工受粉しなくても着果が安定している（図2）。

〔導入効果〕

- 1 人工受粉が不要なため、開花期の天候不良の影響を受けにくく、生産安定に寄与できる。
- 2 春作業の競合がなくなるため、経営規模拡大が可能となる。
- 3 県産日本なしの消費拡大や新たなブランド化が期待できる。

〔導入対象〕

- 1 良食味品種への品種更新や経営規模拡大の意向があるなし生産者
- 2 水稲との複合経営で果樹の新規導入の意向がある農業者

〔留意点〕

- 1 選抜時の系統名は「新美月」が「新園1号」、「新王」が「新園2号」であった。
- 2 着果過多となりやすいが、品種特性に応じた着果管理により省力栽培が可能となる。玉揃いがやや悪いので、摘果や選果で留意する。
- 3 平成23年から現地試作を開始しており、平成27年から果実が市場に流通する予定である。

[具体的データ]



表1 新品種と既存品種の生態および果実品質

品種名	開花期 (盛期)	収穫日 (平均)	果形	果皮色	果重 (g)	果肉硬度 (ホント°)	糖度 (brix%)	酸味 (pH)
新美月	4/27	9/21	円	赤褐～黄赤褐	455	5.5	14.3	4.7
新王	4/24	9/28	円	赤褐～黄赤褐	520	4.8	15.0	4.9
幸水	4/26	8/30	へん円	中間	471	5.1	12.9	5.2
豊水	4/23	9/20	円	赤褐	593	4.6	12.7	4.6
あきづき	4/25	9/25	へん円	赤褐	548	4.3	12.8	4.7
新高	4/21	10/17	円	赤褐	816	4.6	13.3	4.8

注) 「新美月」「新王」は原木、主要品種は成木のデータ。平成18～21年の平均値

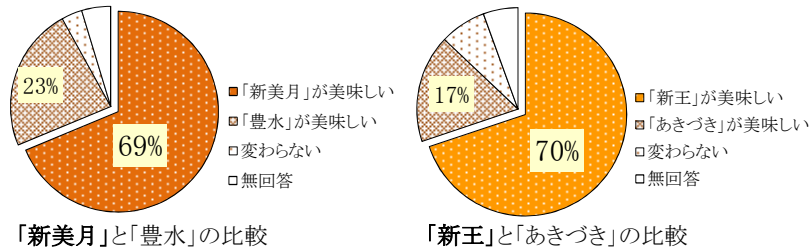


図1 新品種と競合品種の食べ比べによる食味評価結果
(平成24年10月6日に新潟ふるさと村で実施し、448人の消費者が回答)

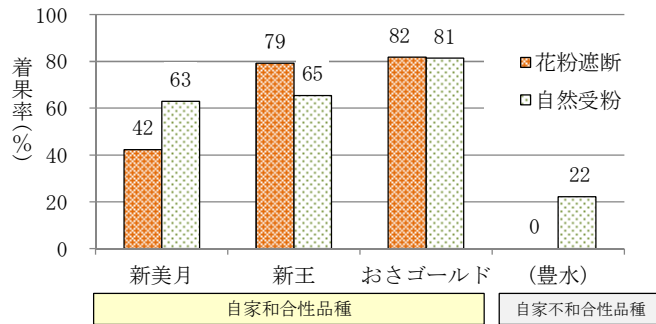


図2 無受粉状態での着果率
(平成25年調査、花粉遮断区は開花前に紙袋で他からの花粉を遮断した)

[その他]

研究課題名：にいがたオリジナル園芸品種の開発育成
 予算区分：県単経常
 研究期間：平成21～32年度
 発表論文等：なし